

ハーレーはこうすれば **安心**

ゴロリンセーフティー術



「ゴロリン」とは立ちゴケのこと

倒れてしまうとカッコ悪いばかりか、ケガをしたり、愛車を壊してしまうなど悲しい結果につながります。次のような4つのシチュエーションで、ゴロリンが多く発生しています。

① 取り回し時



●駐車や車庫入れなど、取り回しの際は注意してください。

② 乗車 / 降車時



●跨ったり、降りる動作の途中でバランスを崩すことがあります。

③ 発進 / 停止時



●クラッチがうまくミートせず、エンストした時によく起こります。

④ Uターン時



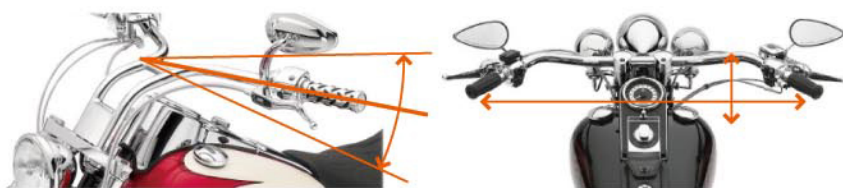
●小さく旋回しようとした時は要注意です。

ゴロリンを防ごう！

体に合ったポジションに調整しよう

◎ハンドルバーの調整 / 交換

ハーレーはハンドルバーの角度調節も簡単にできます。操作が無理なくできるよう、自分に合ったハンドルバーの角度に調整しましょう。



A. ハンドルバーの角度

B. ハンドルバーの幅、奥行き

◎クラッチやブレーキのレバーの位置、角度調整

手の大きさ、握力に合わせて、適正な「あそび」ができるように、調整しましょう。奥行きが合わないときは、ご自分の手にフィットするパーツへの交換がおすすめです。



※ハンドルバーやレバーなどの各調整に際しては、専門メカニックと相談のうえ行ってください。

自分の安心角度を知ろう

両足を路面に着けたまま車体を左右に傾けていった時、自分で引き起こせる角度（安心角度）を確認しておきましょう。安心角度の把握は一人では難しいため、お店の人などに協力してもらいましょう。

ここを超えたら「ゴロリン！」

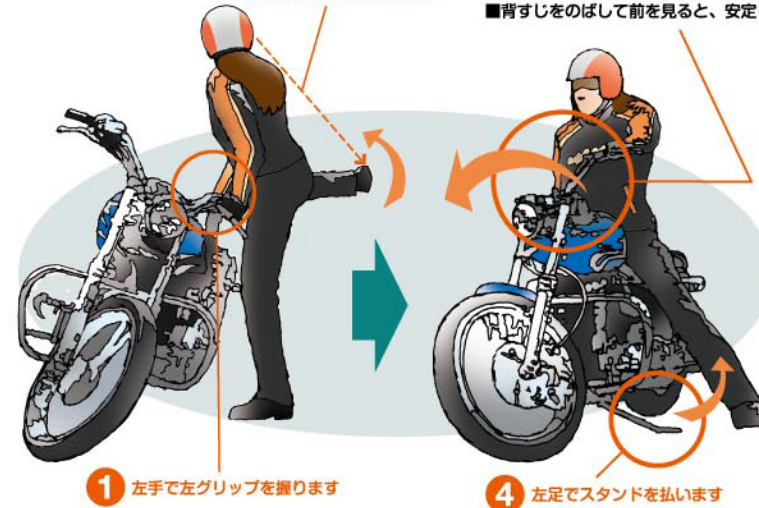


ハーレー流の乗り降りをマスターしよう

◎乗る時

② 車体を揺らないようにつま先を見ながら乗ります

③ ハンドルを右いっばいに切って車体を垂直に立てます
■フロントブレーキをかけながら起こすと、楽に起こせます
■背すじをのびて前を見ると、安定します



① 左手で左グリップを握ります

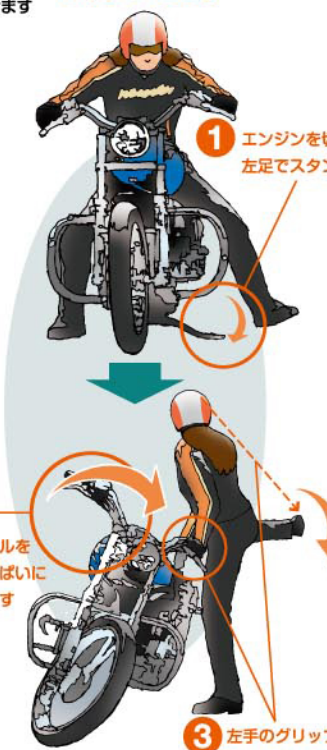
④ 左足でスタンドを払います

◎降りる時

① エンジンを切ってから、左足でスタンドを出します

② ハンドルを左いっばいに切ります

③ 左手のグリップを握ったまま、足を車体にぶつけないようにつま先を見ながら降ります



おすすめグッズ

女性でもスタンドの出し入れが楽々

<サイドスタンド エクステンション>

スタンドに足が届きにくい方は、スタンドの先端に取り付けることで、スムーズにスタンドの出し入れが行えるようになります。



それでもゴロリンしそうなときは・・・
車両に挟まれないように、**回避してください**

★バイクから飛び降りる際は、後方車両などに十分注意を払ってください。

おすすめグッズ

ご自身を守る、セーフティグッズ

<エンジン ガード>

車体の破損防止以外に、車体と路面との間に隙間をつくることで、足を挟みこむなどの危険性を低減します。



<ライディング ウェア>

万一の場合に体を守ってくれるプロテクション機能に富んだ、ハーレー純正「FXRG」がおすすめです。



ハーレー流簡単引き起こし術

◎あわてないでください！安全に起こすために・・・

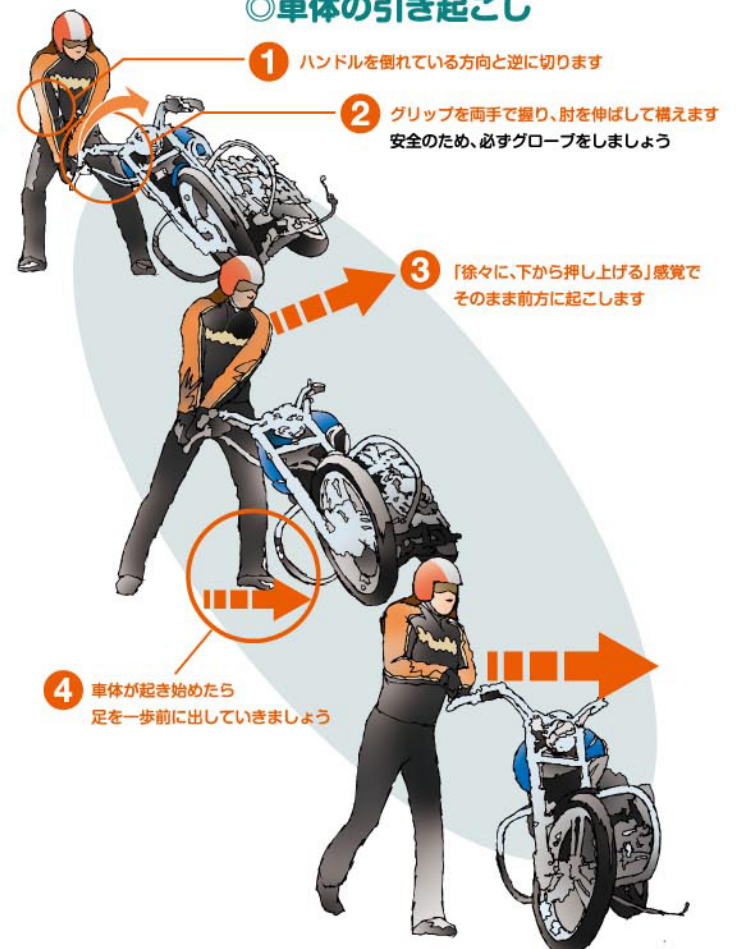
- 深呼吸をして、まずは落ち着きましょう。
- さらに周囲の安全を確認してください。
- エンジンを確実に切ってください。
- ギアをローギアに入れましょう。
- 右に倒してしまった場合は、スタンドを出しておきましょう。

◎車体の引き起こし

① ハンドルを倒れている方向と逆に切ります

② グリップを両手で握り、肘を伸ばして構えます
安全のため、必ずグローブをしましょう

③ 「徐々に、下から押し上げる」感覚でそのまま前方に起こします



④ 車体が起き始めたら足を一歩前に出していきましょ

車体が完全に起きたら完了！